

赤目地域

まちづくりビジョン

みんなで考え みんなでつくる
夢はぐくむ わがまち あかめ



平成22年度赤目小学校卒業生一同の作品

平成23年10月
赤目まちづくり委員会

もくじ

はじめに	2
赤目町のおいたち	3
地域ビジョンの策定にあたり	4
めざすまちづくりの目標、分野別方針、主な取組みの項目	6
地域環境の整備	6
地域福祉の推進	10
地域交流の促進	12
計画の推進にあたって	16
アンケート調査からみた赤目町の現状と課題	17
地域ビジョン策定委員会等の検討経過	24
赤目地域ビジョン策定委員会名簿	26

はじめに

赤目四十八滝に代表される景勝地を有し、古い歴史と貴重な文化財が残されているわが赤目町は、住民相互の連帯意識も強い町です。

こうした「赤目」の課題を明らかにしながら、住民の皆さんがより満足でき活力のあるまちづくりの創造を目指して、私たちの先輩たちのたゆまない努力の上に現在の赤目町があります。

この先輩たちの思いを私たちは継承して、さらなる新しいまちづくりをと、1997年（平成9年）「赤目町地域振興推進協議会」が発足しました。そして広く住民の皆さんからアンケート調査を実施し、寄せられた意見や要望を参考に、平成12年に基本構想をまとめ上げました。

その中で地域の重点課題の一つである県道赤日滝線の拡幅整備について“住民参加型道づくりワークショップ”に取り組んできました。以来10年余りが経過し、地権者の方々のご理解・ご協力と県・市当局のご努力によって、ようやくバイパス拡幅工事実現に向けて動きだしたところです。

一方、高齢者や障害者が安心して暮らせる地域福祉の課題については、旧JA赤目店跡にグループホーム「むすび赤目」が、また旧山城屋店跡地（長坂地内）に、温泉を活用した特別養護老人ホーム「名張もみじ山荘」の施設が当赤目地区にも関係団体のご協力でそれぞれオープンしました。

しかし、基本構想の作成からもすでに10年余りが経過し、世代の移り変わりや情勢の変化をふまえて、今回新たに将来の展望を見すえて「赤目地域まちづくりビジョン」の策定に取り組むことになりました。これは、以前の基本構想の見直しを含め、まちの一層の活性化を図り住民の皆さんが、より快適に暮らせるまちづくりの推進を目指すものであります。

赤日まちづくり委員会

会 長 富森 茂生

赤目町のおいたち

赤目町は、奈良県に接する名張市の西南部に位置し、関西方面からの名張の玄関口であり、市を特徴づける最も顕著なキャラクターとなる景勝赤目四十八滝を有し、豊かな歴史資源とともに観光の名所となっている町です。現在の赤目町の区域は、旧名賀郡滝川村の区域であり、明治22年、町村制実施を機に丈六、相楽、檀、星川、柏原、一ノ井、長坂の7ヶ村が合併して出来た村です。滝川村という村名は、村の中央を流れる滝川に由来して付けられた村名であり、その後、昭和29年、町村合併促進法により解村して名張町と合併し、現在の名張市赤目町として新たに発足したものです。また、従来の7地区から、新川、すみれが丘、赤目が丘が住宅開発され、現在では10地区となっています。

この地域は、古代には矢川条と中村条に分属し、滝川(川名)以南は矢川条、以北は中村条に属していました。中世には、一円東大寺領となり、いわゆる黒田庄の一部となりました。荘園勢力が衰退した中世以後は、統括的な領主もなく群小地方豪族に任せられました。それがたまたま天正9年(1581)織田信長が、全国を平定するため伊賀に攻め入り、総勢3万数千人余りの大軍が北伊賀から南伊賀方面へと侵攻し、伊賀一円ごとく社寺や多くの民家が焼かれました。1600人余りの伊賀軍は、最後に瀧野十郎吉政を城主とする柏原城に集結、立て籠もり奮戦しましたが、多勢に無勢のうえ兵糧も尽きてきたため最終的に和睦したとされています。この戦いは、「天正伊賀の乱」と言われています。

また、赤目町は、750年以上続けられてきている一ノ井地区の松明調進行事、獅子神楽、亥の子もちなど歴史と伝統を守り継承されてきている町でもあります。さらに、6世紀初頭頃に名張を支配した首長の墓である琴平山古墳が築かれ、名張地域の中心であったことが伺えます。

赤目滝の赤目という言葉は、文献上の初見は比較的新しく元禄4年(1691)であり、当初、平安時代から鎌倉時代にかけては、「黄滝(おうだき)」と言われていましたが、その後、「四十九重之滝」～「阿弥陀ヶ滝四十八誓願」～「阿弥陀四十八」～「あめがたき」と変遷し、江戸中期になって「赤目」が地名として用いられるようになりました。「あめがたき」は、阿弥陀滝のなまったもので、弥陀の四十八誓願から四十八の数が用いられました。



地域ビジョンの策定にあたり

赤目町では、現在の赤目まちづくり委員会の前身である赤目町地域振興推進協議会が中心となり、平成12年に、「赤目マスタープラン」が策定され、「ええわて夢はぐくむ赤目町」の将来像を描いた基本構想を掲げてまちづくりが進められてきました。

このまちづくり計画が作られて10年余りを経過した現在では、マスタープランにもとづいた各種の施策や取組みが推進・実行に移されてきています。

その一つには、赤目町にとって重要な生活道路であり、かつ安全対策などの現状から、渋滞解消を望む長年の懸案であった「県道赤目滝線の道路整備」が、一部区間でようやく事業化となり、現在関係の方々の理解と協力のもとに、具体化されつつあるところです。さらに上水道の整備や集落排水事業の推進など、快適な生活環境の整備も着々と進められています。

また、公民館事業の推進をはじめ、当時には企画されていなかった「夏まつり」や「ふるさとウォーク in あかめ」などの事業も実施され、住民のふれあいや交流、健康づくりの場として恒例の地域行事が定着してきています。

しかしながら、既に赤目マスタープランも、策定後11年が経過し、地域的情勢も変化しつつある中で、住民ニーズや地域課題への対応などから、今回、赤目マスタープランの見直しを行うことといたしました。

新しい赤目地域まちづくりビジョンの策定にあたっては、各種団体を代表し構成する委員からなる「赤目地域まちづくりビジョン策定委員会」を平成22年1月発足し、以後15回もの委員会の開催、委員会前の役員会も何度となく開催し、約1年9ヶ月に及んできました。また、具体的な要望や課題を整理するなどのため、各委員が「地域環境整備部会」、「地域福祉部会」、「地域交流部会」の3つの課題別部会に分かれて取り組んできました。

「みんなで考え みんなでつくる 夢はぐくむ わがまち あかめ」を目指した赤目地域まちづくりビジョンは、10年後のまちづくりへの新たな将来像を描き示すものです。

なお、策定にあたっては、平成22年8月、住民の皆さんへのアンケート調査を実施してまいりました。

アンケート調査の結果、概ね次のような趣旨のご意見や回答をいただきました。それをもとにしながら、新たなまちづくりの目標、基本方針、具体的な事業等を取りまとめたものです。

○満足度が高い項目

「街並みや風景の美しさ・緑や自然環境の保全」、「人情や地域の連帯感・コミュニティ活動」、「下水道の整備」に満足しており総合的に見て住み心地が良いまちである。

○満足度が低い項目

「医療施設」、「公園・子どもの遊び場」、「高齢者や子どものための福祉施設」、「文化・スポーツ施設」などの整備は不十分である。また、買物、飲食店、娯楽施設なども少なく、地域の賑わいや活性化も少なく、日常生活に不便さがある。なお、「防犯、防災に対する備えや対策」も十分ではないとしている。

○これからのまちづくりに重要なこと

「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」、「健康の維持や介護の予防への取組み」、「子育てしやすい施設の整備、支援活動の充実」、「子どもの安全確保・防犯対策や防犯活動」など全体的に安全・安心に対する取組みが充実しているまちになることを期待している。また、「水辺や緑などの自然環境の保全やまちの美化」、「赤目口駅広場の整備」に期待をしている。

なお、「公民館活動の充実やイベント事業」、「生活道路の整備」、「赤目滝の環境整備」、「地域福祉の推進のためのボランティア活動」、「コミュニティバス」など個別の地域課題への今後の取組みについて多くのご意見を寄せていただきました。

(アンケート結果の詳しい内容は、17ページからをご覧ください。)

赤目地域ビジョン策定委員会
委員長 富森 一弥

(主な地域の現状)

◆赤目町の人口(国勢調査人口)

平成22年10月1日現在 4,139人 世帯数 1,581…26人/世帯
(平成12年10月1日現在 4,602人 世帯数 1,453…32人/世帯)

◆65歳以上人口…平成22年10月1日現在 1,144人(27.6%)

◆児童・生徒数

赤目保育所→平成22年度 88人(平成12年度 105人)

赤目小学校→平成22年度 178人(平成12年度 291人)

赤目中学校→平成22年度 433人(平成12年度 711人)

◆「赤目滝」入り込み客数…平成22年度170,200人
(平成12年度244,900人)

◆赤目公民館利用者数 平成22年度 1,363件 13,134人
(平成12年度 515件 6,327人)

めざすまちづくりの目標、分野別方針、主な取組みの項目

地域環境の整備

テーマ **歴史と文化を育む 魅力あふれる わがまち あかめ**

赤目地域には、平成の名水百選にも選定された赤目四十八滝があり、ここを源流とする滝川は、当地域を南から北に流れています。この滝川と交差しながら県道赤目滝線が通っており、途中で当地区の玄関口である近鉄赤目口駅があります。また、周辺の丘には、琴平山古墳、柏原城跡などがあり、さらに一ノ井地区の松明調進行事や各地区には、獅子神楽や亥の子もちなどの伝統文化があります。

これらの自然や歴史・文化を大切に、生かしながら地域環境を整備し、「魅力あふれるまち」をつくりたい。

ここでは、「歴史と文化を育む 魅力あふれる わがまち あかめ」を目指し、3つのサブテーマを設定しています。



赤目四十八滝 荷担滝



琴平山古墳 航空写真

サブテーマ1 安全で快適な生活環境をめざして

安全で快適な生活は、すべての住民の願いです。ここでは、県道赤目滝線や赤目口駅周辺の整備など市や県、鉄道・バス事業者と連携して進めるべき大規模な事業、防犯パトロール隊や防災組織の充実など住民主体で取り組める事業も掲げています。可能な部分から取り組むことによって、少しでも安全で快適な生活環境をつくります。

ここでは、サブテーマのもとに4つの分野別基本方針を策定しています。

1. 道路や水辺の環境整備
 - ・ 幹線道路や生活道路の整備
 - ・ 踏切周辺の整備
 - ・ 滝川等の河川改修
2. 赤目口駅前広場等の整備
 - ・ 道路と駅前広場との区画整備
 - ・ バス停の整備（ベンチの設置等）
 - ・ 駅北側に改札口の新設
3. 防犯、防災対策の充実
 - ・ 防犯灯の整備
 - ・ 防犯パトロール隊の充実
 - ・ 防災組織の充実
 - ・ 消防分署の誘致
 - ・ 防災資器材の整備
 - ・ 消防団員の増員と確保
4. 公共交通の推進
 - ・ 路線バスの拡充
 - ・ 近鉄線の増便



赤目口駅前広場

サブテーマ2 自然環境、観光、歴史資源を生かしたまちづくり

赤目四十八滝やそこから流れ出る滝川は、かつては村名に、現在は町名にも使われるとともに、観光や利水など住民の生活に密接に関わっています。

この自然環境の恩恵を受けて、古墳や城跡に見られるように古くから人々が活躍し、そこで育まれた獅子神楽などの伝統文化は、今も受け継がれています。

これらの地域資源を生かして、訪れる人も住んでいる人も満足できる魅力あふれるまちをつくりまします。

ここでは、サブテーマのもとに3つの分野別基本方針を策定しています。

1. 赤目四十八滝を生かしたまちづくり
 - ・駅前広場に滝への案内看板の設置
 - ・ハイキングコースの整備（トイレ、案内看板含む）
2. 人と自然が共生する潤いのあるまちづくり
 - ・日の谷温泉に足湯の設置
 - ・滝川沿いを螢の里に
 - ・親水公園の整備
3. 史跡、伝統文化を生かしたまちづくり
 - ・東大寺松明調進行事、獅子神楽等の伝統文化の継承
 - ・琴平山古墳、柏原城跡等の史跡の整備、紹介



東大寺松明調進行事（一ノ井地区）

サブテーマ3 地域産業の活性化をめざして

赤目地区には、旅館やみやげ物店等が集積し、観光産業が発達しています。また、赤目の山で採れる松茸は、収穫量が減少しているとはいえ「赤目マツタケ」としてブランドを確立しています。かつては養蚕や紙漉きも行われていました。

現在では、低農薬や有機栽培など先進的な農業に取り組んだり、観光客に赤目の魅力を紹介するボランティアガイドが、誕生したりしています。これらの地域資源や人材を活用し、地場製品の直売、日の谷温泉の活用、また、地域の環境保全のため除草作業を請け負うなどし、農業と観光が連携することによりコミュニティビジネスへとつなげていきます。

ここでは、サブテーマのもとに2つの分野別基本方針を策定しています。

1. 地域産業の掘り起こしと活用
 - ・ 地場製品の直売
 - ・ マツタケ山の再生
2. コミュニティビジネスへの取り組み
 - ・ 日の谷温泉給湯スタンドの利用促進
 - ・ 除草作業の請負



日の谷温泉 温泉スタンド

地域福祉の推進

テーマ **ともに支えあい 誰もが安心して暮らせる 笑顔あふれる
わがまち あかめ**

住民参加による赤目地区の福祉のまちづくりの推進にあたっては地区住民との連携を保ちつつ、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現をめざします。

ここでは、「ともに支えあい 誰もが安心して暮らせる 笑顔あふれる わがまち あかめ」を目標に、1つのサブテーマを設定しています。



ひとり暮らしの高齢者の集い



忍たま広場

サブテーマ 地域が支えあう支援の輪

人権の尊重を基本に携えながら住民の見守りネットワークの構築に取り組み、保健、医療、福祉について市との連携を強化して生涯にわたり誰もが住みなれた地域で元気で健やかな暮らしができる、人にやさしい安心のまちづくりを進めます。

ここでは、サブテーマのもとに、2つの分野別基本方針を策定しています。

1. 地域ボランティア制度の構築
 - ・健康づくり支援活動
 - ・生活支援活動
 - ・子育て、子ども支援活動
 - ・高齢者福祉支援活動
 - ・障害者福祉支援活動
 - ・要援護者支援活動

2. コミュニティ交通システムの導入
 - ・コミュニティバス等の運行事業



福祉バス「ふれあい」号

地域交流の促進

テーマ 互いに認め合い 誰もが大切にされる わきあいあいの
わがまち あかめ

さまざまな人々が集まり、語り、学び、交流し合うなどにより、地域の一体化を図り、和気あいあいの人間味あふれる安全で快適な住みよいまち、近隣地域とも交流の輪を広げたまち、心豊かにふれあうまちをめざします。

ここでは、「互いに認め合い 誰もが大切にされる わきあいあいの わがまち あかめ」を目指し、3つのサブテーマを設定しています。



赤目公民館まつり



ちまさ
粽作りを楽しむ催し
(柏原地区)

サブテーマ1 ふれあい活動の推進

皆に感謝の心を忘れず挨拶を通じて、また、交流を通じて子供から大人までみんなで支えあう元気で明るい地域社会“あかめ”になるようなまちづくりをめざします。

ここでは、サブテーマのもとに、4つの分野別基本方針を策定しています。

1. さわやか運動の事業
 - ・あいさつ運動の推進
 - ・憩いの場づくりの推進

2. クリーン作戦事業の推進
 - ・河川敷の清掃活動
 - ・ゴミゼロ推進事業
 - ・緑・花を植える事業展開
 - ・グラウンドの芝生化推進

3. 野外学習の実践
 - ・地域文化の推進
 - ・歴史の継承と民族行事の推進
 - ・スポーツ教室の実践
 - ・親子ハイキング推進
 - ・社会見学

4. 児童と地域住民とのふれあい
 - ・ふれあいフェスティバルの推進
 - ・工作教室（物作りの実践）



ふるさとウォーク in あかめ

サブテーマ2 公民館事業の充実

公民館活動では、各種のサークル活動、生涯学習、人権教育などが行われています。しかし、皆さんのニーズは多彩であり、公民館の新設や設備の充実を図り、さらに幅広い活動に取り組み生きがいのある「人づくり」、「地域づくり」に努めていきます。

ここでは、サブテーマのもとに4つの分野別基本方針を策定しています。

1. 公民館の整備
 - ・ 公民館の新設
 - ・ 公民館駐車場の拡大
2. サークル活動の活性化
 - ・ サークル活動の推進
 - ・ 公民館まつりの充実
 - ・ 高齢者学級の推進
 - ・ 実年学級の推進
3. 生涯学習の推進
 - ・ 各種講座の推進（健康・料理・文化・その他）
4. 人権教育の推進
 - ・ 講座、学習会
 - ・ 講演会、映画会



公民館主催 歴史講座

サブテーマ3 地域の連携強化

地域の催しものやボランティア活動などに気楽に参加しやすいしくみづくりで地域の連携に努めていきます。

また、将来を見据えた近隣地域との交流も活発にして情報交換を行い、つながりを深めていきます。

ここでは、サブテーマのもとに2つの分野別基本方針を策定しています。

1. 地域との交流、連携の推進
 - ・ イベント活動の見直しと推進
2. 近隣地域との交流、連携
 - ・ 町民グラウンドの設置
 - ・ イベント参加（交流）の推進
 - ・ ボランティア交流の推進



赤目地区夏まつり

計画の推進にあたって

赤日地域ビジョン計画の実現を図っていくには、中長期計画をたて将来に向けて腰を据えて段階的に行っていく必要のあるものなどがありますが、「みんなで考え みんなでつくる 夢はぐくむ わがまち あかめ」を基本にして、当面次のような検討が必要と考えられます。

○赤日町の地域ビジョンが地域全体の計画として実効性のあるものとするため、住民のみなさんに広く周知し理解を得ながら実現に向けて取り組んでいく必要があります。

○ビジョン計画を推進するため、体制を整えていく必要があります。

○ビジョン計画を推進するため、まず地域が協力して主体的に何に取組み、地域間との連携や名張市との協働の取組みなど共通認識が必要です。

そして、このビジョン計画は、必要に応じて見直し改善を加えるなど進捗状況を点検しながら次の活動へつなげるようにしていく必要があります。

本計画は、おおむね10年後の地域ビジョンを描き3つのメインテーマと7つのサブテーマを定めて、具体的事業の実現を目指すものです。

アンケート調査からみた赤目町の現状と課題

赤目町地域ビジョンを策定するにあたって町民のみなさんへのまちづくりアンケート調査を実施しました。

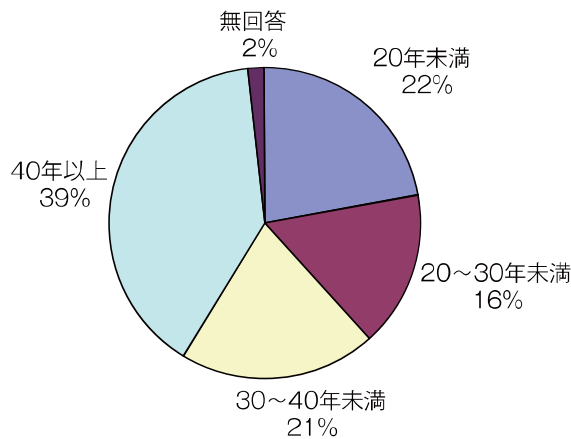
アンケート実施期間 平成22年8月1日～31日
対象世帯数 1289世帯
回収通数 712通(回収率55.2%)
調査結果の報告 赤目まちづくり通信第5号
(平成22年12月4日)

「アンケート調査の結果は、主に次のような内容でした。」

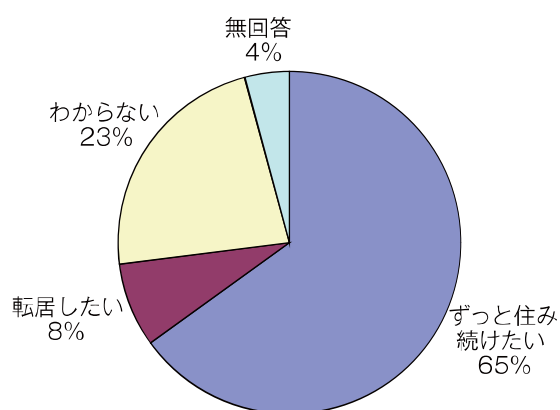
☆ 赤目地域に住み続けたい人が多い。

回答いただいた人の40%がこの赤目地域に40年以上も住み続けられており、また、今後の居住予定も、「ずっと住み続けたい」が65%でほぼ3分の2を占めています。男女別では、男性が女性よりも10%以上高く、年代別では、年代が高くなるほど、高くなっています。また、居住年数別においても、年代と同様居住年数が長いほど、「ずっと住み続けたい」割合が高くなっています。全体的にこの地域に住み続けたいという人が多くいることは、まちづくりの取組みへの期待感がうかがえ喜ばしいことです。

※赤目地域で住むようになって何年になるか。



※ 今後も赤目地域に住み続けたいか



☆ 赤目地域の生活環境について

現在の生活環境を評価するにあたって、「普通」「無回答」を除き、(満足・やや満足)、(不満・やや不満)のグループに分け評価を行いました。

その結果、まちに対する思いとして満足度が高い項目(○)は、「街並みや風景の美しさ」、「緑や自然環境の保全」に対して満足している方が多く見られ、さらに「人情や地域の連帯感やコミュニティ活動」にも満足しています。注目すべきは、農業集落排水対策として整備されつつある「下水道の整備」や「ごみの収集処理」に満足度が高い人が多くなっていることです。

また、生活環境全体を評価する「総合的に見た住み心地」についても満足されている人が多い結果となっています。

一方、不満度が高い項目(△)については、「医療施設」、「公園・子どもの遊び場」、「親しみやすい河川の整備」、「福祉施設」、「文化・スポーツ施設の整備」など施設整備には、不十分であり、もっと改善してほしいという思いが表れています。「買物・飲食店・娯楽施設などの日常生活の便利さ」、「地域の賑わいや活性化」にも不満を感じています。また、防犯、防災対策にも不十分であるとの意見がありました。

これらの結果については、男女、年代別とも、大きな差異は、見られませんでした。

項 目	(満足・やや満足)	(不満・やや不満)
○「街並みや風景の美しさ」	34%	12%
○「下水道の整備」	30%	23%
○「緑や自然環境の保全」	29%	13%
○「総合的に見た住み心地」	25%	18%
○「ごみの収集処理」	25%	22%
○「人情や地域の連帯感やコミュニティ活動」	24%	14%
○「騒音・振動などの対策について」	19%	14%
○「公民館、集会所などの住民交流の施設や場」	19%	19%
△「病院など医療施設の便利さ」	9%	62%
△「公園・子どもの遊び場」	3%	55%
△「親しみやすい河川の整備」	4%	51%
△「高齢者や子どものための福祉施設」	6%	46%
△「買物・飲食店・娯楽施設などの日常生活の便利さ」	14%	46%
△「文化・スポーツ施設の整備」	4%	43%
△「地域の賑わいや活性化」	5%	43%
△「空き巣や子どもの安全等の防犯対策」	6%	30%
△「水害・地震・火災等に対する防災体制・対策」	11%	25%

☆ これからの赤目地域のまちづくりに重要なことは

赤目地域のまちづくりには、何が重要であると考えておられるかを17項目から5つを選んで回答をお願いしました。重要と思う項目を順に掲げてみると「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」、「健康の維持や介護の予防への取組み」、「防犯対策」、「子育てしやすい施設」、「子どもの安全確保」など全体的に安全・安心に対する取組みへの期待が大きいことがわかります。

また、今後も引続き「自然環境の保全」や「まちの美化」などにも期待が大きいことが見て取れます。なかでも「赤目口駅前広場の整備」に期待する意見が多くみられました。

年代別に見ると、30歳代では、1位 子どもの安全確保、2位 子育てしやすい施設や支援活動の充実、3位 高齢者や障害者が安心して暮らせるまちとなり、70歳代では、1位 高齢者や障害者が安心して暮らせるまち、2位 健康の維持や介護の予防への取組み、3位 まちの美化、ごみのポイ捨ての解消という結果になり、年代によりまちづくりに重要と思う項目に違いが見られました。

順位	項 目	件 数
1	高齢者や障害者が安心して暮らせるまち	449
2	健康の維持や介護の予防への取組み	283
3	治安維持のための防犯対策・防犯活動	254
4	水辺や緑などの自然環境の保全	222
4	赤目口駅前広場の整備	222
6	まちの美化, ごみのポイ捨ての解消	200
7	子育てしやすい施設や支援活動の充実	178
8	子どもの安全確保	172
9	田園景観, 集落の街並み景観などの維持保全	139
10	商工業の振興や雇用の拡大	135
11	子ども, 高齢者, 障害者などいろいろな人たちとの交流	112
11	コミュニティ活動の充実, 活動のできる場所や施設の整備	112
13	歴史を生かしたまちづくり	106
14	地域農業の振興	102
15	定住人口増加のための住宅地の整備	73
16	まちづくり, イベント, スポーツ事業の充実	60

その他、これからの赤目まちづくりに必要なことを具体的に記述していただきました。

意見をいただいた83件のうちの主な内容は次のとおりです。

<その他記述欄から一部要件を抜粋>

- ◆ 歴史行事、祭りの保存、継承と組織づくり
- ◆ 道の駅、地場産販売、ふれあい交流場所
- ◆ 駅前広場の整備、駐輪対策、にぎわい
- ◆ 交通安全対策、防犯灯の整備、防災ルートの確保
- ◆ 自然環境、歴史、文化、史跡の保存活用
- ◆ 高齢者農業の維持
- ◆ 生活道路の維持保全、幹線道路の整備
- ◆ コミュニティバス、ナッキー号の運行
- ◆ 気軽に参加できる地域風土づくり
- ◆ 若者の定住、ふるさとへのUターン
- ◆ ボランティア登録制度
- ◆ 日常生活の便利さ(店など)
- ◆ 気軽集える場所
- ◆ 医療施設の充実
- ◆ 農地の荒廃化対策
- ◆ 下水道の整備
- ◆ 鳥獣害対策
- ◆ 地域情報誌、地域マップ
- ◆ 滝川の保全、水辺の整備
- ◆ 観光地と史跡めぐりルート
- ◆ ごみのポイ捨て、まちの美化

☆ **公民館活動について**

公民館学級を知っている人は、77%と高いが、参加したことがある人は、28%で比較的認知度が高いものの参加状況が低いといえます。また、公民館サークル活動では知っている人は、53%で、そのうち参加したことがある人は、28%となっています。今後ともさらに参加者の募集、拡大、情報発信に向けた取り組みを行い、活性化を図っていく必要があります。

また、公民館の建物、設備・機器、駐車場について尋ねたところ、建物については、21%の人が狭い。50%の人は、駐車場が狭いとしている。設備・機器について改善が必要とする人が、25%となっており、現状の施設や設備に対する改善や整備の要望のあることが伺えます。

☆ **赤目夏まつり・ふるさとウォーク in あかめについて**

「赤目夏まつり」事業については、91%の人が知っており、そのうち60%の人が参加したことがあるとしています。

一方、「ふるさとウォーク in あかめ」事業は、69%の人が知っているが、参加したことがある人は、26%でした。年々参加者が増えつつあるものの今後、さらに町民に親しまれるよう工夫していく必要があります。

☆ **地域の防災対策について**

防災対策について尋ねたところ「非常用食品等を準備している」とする人は、わずか28%のみでした。今後、さらに住民の防災意識、啓発に取り組む必要があります。避難場所については、知っている人が80%と認知度は高い結果となりました。一方、赤目地区への消防分署の設置については、施設誘致を要望する人が55%と高く今後、長期的な課題として考え取り組んでいく必要があります。

☆ **生活道路の整備について**

生活道路の整備についてのアンケート結果では、「通学道路としての整備が不十分である」とする人は、57%でした。また、「街路灯、防犯灯の設置状況について尋ねたところ「不十分である」とする人が、61%と身近な生活道路の改善、整備についての要望がかなり高くなっています。

☆ **観光地あかめ「赤目滝」の環境整備について**

観光地あかめ「赤目滝」の環境整備について記述方式で意見を尋ねたところ、185件もの多様なご意見を寄せていただきました。

<記述欄から一部要件を抜粋>

- ◆安全な道路の整備
- ◆日の谷温泉の有効活用
- ◆赤目口駅玄関口の整備
- ◆駐車場の確保
- ◆観光ネットワーク化
- ◆道の駅
- ◆休憩所
- ◆防災対策
- ◆エコクリーン作戦・美化活動
- ◆滝川の整備
- ◆案内板の整備
- ◆ごみの不法投棄対策
- ◆歩くことを視野に入れた環境整備
- ◆下水道の整備

☆ ボランティア活動について

益々高齢化が進む中で、人々のつながりや住みやすい地域づくりを進めるため、今後、ボランティア活動が必要であるか尋ねたところ、78%の人が必要であると感じておられ、住民の関心度やニーズが高まってきている現状が伺えます。そして、必要と考えるボランティア活動は、福祉を主体にした活動が、39%と一番でした。

☆ ボランティア活動の支援分野について

困っている人を手助けするためのボランティア登録制度があれば参加しますかとの問いに対しては、51%の方が参加するとしています。しかも、どのような分野の支援活動なら協力できるか尋ねると、多い順に「車での送迎」、「清掃作業」、「介護」、「安全パトロール」、「子育て」などでした。

☆ ボランティア活動の利用分野について

一方、日常生活において不便を感じる時ボランティア組織があれば利用するかどうか尋ねると、50%の方が利用するとしている。また、利用する内容は、「介護」、「車での送迎」、「災害対応」、「草刈り」、「清掃作業」、「住宅修繕」などの順になっています。

☆ コミュニティバス（送迎用乗りもの）について

家族の中で買い物、通院等日常の移動に不便を感じている方がおられるか尋ねると、「不便を感じている」が33%、「感じていない」が52%でした。コミュニティバスが運行されたら利用する目的は、「買い物」や「通院」などでした。

どの程度利用しますか、との問いに対して、「週2～3回程度」が18%、「月4～5回程度」が18%、「利用しない」が15%でした。また、「負担しても便利な方が良い」とする人が45%ありました。

☆ 赤目まちづくり委員会への意見や要望 <記述欄から一部要件を抜粋>

- ◆タイムリーできめ細やかな情報の提供、PR
- ◆幹線道路の整備促進と生活道路の維持
- ◆一人暮らしの方との交流、ふれあい、支援、見守り
- ◆人が訪れる、集まるまちイベント
- ◆赤目の顔、駅前の整備、児童公園の整備
- ◆自然環境の保全、生活支援、ボランティア活動
- ◆地域の生活に密着した取組みの推進
- ◆地域住民が気軽に参加できるイベント企画
- ◆歴史、文化資源の保存と活用
- ◆ふるさとに帰りたくなるまち
- ◆道の駅、青空市場
- ◆子どもフォーラム
- ◆現行のマスタープランの推進
- ◆コミュニティ交通手段
- ◆暮らしやすい環境づくり
- ◆バリアフリーの推進

☆ 今回のアンケート調査においては、質問事項に対して自由にご意見を記述していただく欄を設けました。その結果、多くの方から多様なご意見が寄せられ総数1,300件近い意見で、まちづくりへの関心の高さが伺える結果となりました。

一番多くあったのは、「公民館活動」に対する意見で282件、次いで「観光地あかめ」に対する意見185件、「ボランティア活動」137件、「生活道路の整備」127件、「コミュニティバス」119件の順でした。また、「夏まつり」や「ふるさとウォーク in あかめ」の事業に対しても多くの意見が寄せられました。

意 見	件 数
公民館活動	282
観光地あかめ	185
ボランティア活動	137
生活道路の整備	127
コミュニティバス	119
赤目まちづくり委員会への意見・要望	105
夏まつり	87
ふるさとウォーク in あかめ	63
地震・火災など防災対策	59
生きがいづくり	46
その他	83

赤目地域ビジョン策定委員会等の検討経過

平成21年

- 6月21日 赤目まちづくり委員会総会（地域ビジョンの策定について）
- 11月12日 まちづくり委員会役員へビジョンづくりについて市から説明
- 12月 3日 まちづくり委員会理事会（ビジョン策定委員の選出について）
- 12月15日 地域ビジョン策定委員会委員の委嘱

平成22年

- 1月24日 第1回地域ビジョン策定委員会（役員を選出、今後の進め方）
- 2月15日 地域ビジョン策定役員会（地域課題、部会構成など）
- 2月21日 第2回地域ビジョン策定委員会（地域課題、部会構成…地域環境整備部・地域福祉部・地域交流部、住民アンケートの実施について）
- 3月 9日 ビジョン策定委員会役員、部会長会議（各部門課題の検討）
- 3月22日 第3回地域ビジョン策定委員会及び部会（住民アンケート項目案の検討と今後の進め方）
- 3月26日 地域ビジョン策定委員会役員が市地域経営室と協議（住民アンケートへの取組みなどの進め方）
- 4月17日 第4回地域ビジョン策定委員会及び部会（住民アンケート項目案の検討）
- 5月22日 第5回地域ビジョン策定委員会（住民アンケート項目案の調整）
- 6月10日 ビジョン策定委員会役員、部会長会議（住民アンケート項目案の調整）
- 6月26日 第6回地域ビジョン策定委員会（住民アンケート案のまとめ）
- 7月17日 第7回地域ビジョン策定委員会（住民アンケート案最終整理）
- 8月 住民アンケート各戸配布～回収
- 10月25日 ビジョン策定役員会（アンケート集約作業、広報発信など今後の進め方）
- 11月 4日 ビジョン策定委員会役員、部会長会議（集約作業について）
- 11月20日 第8回ビジョン策定委員会及び部会（集約まとめについて）
- 11月30日 ビジョン策定委員会役員、部会長会議（集約結果の広報原稿について）
- 12月 4日 赤目まちづくり通信特集号で住民アンケート結果を公表 住民アンケート結果を各戸へ配布

平成23年

- 1月10日 ビジョン策定役員会（まちづくり基本方針案や今後のスケジュールなどについて）
- 1月29日 第9回ビジョン策定委員会及び部会（まちづくり基本方針案の抽出、今後のスケジュールについて）

- 2月12日 ビジョン策定役員会（各部門ごとのテーマの検討について）
- 2月27日 第10回ビジョン策定委員会及び部会（基本方針・テーマの決定、実施項目の検討）
- 3月20日 ビジョン策定役員会（部門テーマ・方針の確認、総合テーマ・目標の検討）
- 3月27日 第11回ビジョン策定委員会及び部会（総合テーマ、実施項目の検討）
- 4月16日 ビジョン策定役員会（分野別方針、ビジョン構成、まちづくり委員会総会報告内容について）
- 4月24日 第12回ビジョン策定委員会及び部会（総合テーマの確認、分野別方針の調整、実施項目抽出、まちづくり委員会への報告案）
- 5月14日 ビジョン策定役員会（アンケートからの課題、ビジョン構成、市内ビジョン策定状況、今後のスケジュールについて）
- 5月21日 赤目まちづくり委員会理事会（赤目地域まちづくりビジョンのテーマ・基本方針案の総会提案について）
- 5月28日 23年度赤目まちづくり委員会総会（赤目地域まちづくりビジョンのテーマ・基本方針案の承認）
- 6月 5日 第13回ビジョン策定委員会及び部会（各地域課題部門のテーマ・サブテーマ・分野別方針・実施項目案のまとめ、市内ビジョン策定状況、ビジョンの構成及び具体記述の検討作業）
- 6月26日 環境整備部会（部門別課題の整理）
- 7月 3日 ビジョン策定役員会（ビジョン案の構成、案まとめについて）
- 7月17日 第14回ビジョン策定委員会及び部会（ビジョン案の構成、まとめについて）
- 8月28日 ビジョン策定役員会（ビジョンのまとめ、今後のスケジュール）
- 9月25日 第15回ビジョン策定委員会及び部会（ビジョンのまとめ）
- 10月15日 まちづくり委員会へ「赤目地域まちづくりビジョン」策定報告

<赤目地域ビジョン策定委員会名簿>

委員長 福森 忠彦 (平成23年3月31日まで)

委員長 富森 一弥 (平成23年4月1日から)

副委員長 寺田 純一

○地域環境整備部会

部会長 川崎 泰之

委員 福森 忠彦

委員 白樫 義和

委員 大田 勝久

委員 山添 美保

委員 山本 和男

委員 大西 利和
(平成23年3月31日まで)

委員 大西 昌男
(平成23年4月1日から)

○地域福祉部会

部会長 西本 悦夫

委員 寺田 純一

委員 垣中 和代

委員 清水 義喜

委員 井上 久郎

委員 仲 和也

委員 吉本 博孝

○地域交流部会

部会長 淵矢 健二

委員 富森 一弥

委員 田中 豊

委員 姫野 正己

委員 福田 典子

委員 森岡 敬一